

社会科学学習指導案

平成 年 月 日 (木) 第4校時 2年1組 (2年1組教室) 指導者

1. 単元名 2章 世界と比べた日本の地域的特色 1節 自然環境の特色

2. 考察

(1) 教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置づけ及び単元内容

本単元は、学習指導要領に示された(3)「世界と比べて見た日本」の「ア 様々な面からとらえた日本」の中の「(ア) 自然環境から見た日本の地域的特色」を取り扱う。ここでは、日本の地域的特色を、地形、気候、災害などの自然環境の面から世界と比較・関連付けて学習していく。世界的視野から日本を1つの地域としてとらえることと、大まかな日本国内の地域差を追求することによって、国土の特色を理解させていく。

世界的視野から日本の自然環境を見ると、次のようなことがわかる。1つ目は、世界的には大地が不安定な地域、安定している地域とある中で、我が国日本は環太平洋造山帯に属し、地震や火山の多い不安定な大地上に位置している。2つ目は、世界を気候や植生に着目して見ると、熱帯から寒帯、砂漠から森林に覆われた地域まで見られる。その中で日本は、温帯に属し、降水量も多く、森林、樹木が生長しやすい環境にある。しかし、同じ温帯でも地形や季節風、海流などによってそれぞれ違った地域的特色が見られる。3つ目は、世界には海にまったく面しない内陸国や島国があるが、日本の国土は海に囲まれた島国であり、近海は大陸棚が広がり、寒流、暖流が流れる世界的な漁場となっている。4つ目は、これらの特色のある国土であるため、様々な自然災害が起こりうる。

②主な伸ばしたい資質・能力

- ・この単元では、分布図、雨温図、写真、地形図、グラフなどの多種多様な資料に触れることになる。資料の読み取りの過程の中で、課題や目的に応じて資料を読み取る力の育成を図る。
- ・資料から読み取ったことを基に、地域間を比較したり、既習事項と関連付けたりすることで、地理的に考察する力の育成を図る。
- ・近年、東日本大震災や熊本大分地震、大きな台風の影響による豪雨、土砂災害など、大きな自然災害が発生したため、それらを取り上げることで防災への関心を高める。しかし、福島から避難してきている生徒が1名いるため配慮したものにす。

以上のことから、本単元では世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を追求し、我が国の国土の特色を大観させるとともに、地域の規模に応じて、また、地域間を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を身につけさせる。

③そのために必要な指導・学習活動

○世界と比較し日本の特色を見いだしていく。

- ・第1に世界の山地と比較し日本の山地の特色と山地のと資料の読み取りでは、見る視点を与え、ポイントを絞って見取らせる。そのとき、クラスの実態や生徒の実態に応じてペア学習やグループ学習を取り入れていく。
- ・第2に世界と日本の河川の比較をし、日本の河川の特色を見だし、その河川が作り上げる様々な地形をおさえていく。河川の特色を見いだす際は、長さやその傾斜に注目してとらえられるようにしたい。
- ・第3に島国である日本に見られる様々な海岸について、その利用方法に着目して変化に富んだ日本の海岸をとらえさせたい。また、日本近海には4つの海流が入り組んでおり、好漁場となっていることも一緒にとらえていく。
- ・第4に世界の気候と日本の気候を雨温図を使いとの特色をとらえていく。日本は地域によって違いがあることを既習事項と結びつけたり、季節によって違いがある季節風の影響であることを調べていく。
- ・最後に、変化に富んだ日本列島では、様々な自然災害が起こることを理解し、防災についても考えさせていきたい。

④今後の学習の活用

- ・本単元は、この後学習する「世界と日本の人口」、「世界と日本資源と産業」、「世界と日本の地域間の結びつき」とも関連が深い。本単元で日本の地形や気候の特色をつかむことにより、今後の学習でそれらと人口や資源・産業などを結びつけて考えることができるようにする。

(2) 生徒の実態及び指導方針 (36名)

①既習の学習内容や活動

- ・小学校5年生において地理的学習「わたしたちの国土と環境」を学習している。
- ・中学校1年生では、『世界と日本の地域構成』として「地球のすがた」「世界のすがたとさまざまな地域」「日本のすがたとさまざまな地域」を学習した。『地域の規模に応じた調査』では、「身近な地域の調査」「都道府県の調査」を行っている。
- ・前単元では、「日本の姿」を位置、時差、範囲(排他的経済水域)、都道府県の面でとらえ、日本の姿を外国の人に説明するという活動をしてきた。日本の姿を多面的多角的にとらえてきた。

②本単元に関わる児童生徒の実態

本学級の生徒は、日頃からグループ活動をメインに学級経営を行っており、グループで話し合い活動を活発に行える。また、グラフや資料を読みとることを1学年のときから数多く取り入れているため、資料読み取りに対して積極的に取り組める生徒が多い。さらに、自分が感じたことや自分の意見を書くことも抵抗なくできる生徒が多い。ただ、グラフや資料を作る作業を行うと作成するスピード差が大きい。

③指導方針

- ・多種多様な資料を扱うときには、全体で見方や読み方を確認し個人の活動に入るようにする。生徒がその資料のとらえさせたいポイントを絞るとともに1単位時間であまり多くの資料を用いないようにする。
- ・丁寧に資料を読みとり、資料を根拠にした展開をすることで、知識に偏らないようにする。
- ・ICTを活用し、写真や資料を拡大、カラー表示し、全体で確認したいことができるようにする。
- ・着色する作業やグラフの作成では、長時間の作業にならないように、ポイントを絞って作業させたり、グループで協力したりしていき、時間差が生じないように配慮していく。
- ・自らが作った資料を使うことで、学習への関心を高められるようにしていく。
- ・話し合いをする際には、自分の意見を持ち、比較できるように、個人で考える時間を確保する。
- ・意見を出す場面では、考えるヒントや見るポイントを用意し、資料をもとに考えを導き出せるようにしていく。
- ・実際の模型を使っていくことで、視覚的に、違いが起こる原因をとらえられるようにする。

3. 単元(題材)の目標

- ・世界の地理的事象と比較することにより、日本の地形や気候、それによっておこる自然災害について学び、日本の自然環境の特色を理解することができる。

4. 評価規準

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解	観 点
<ul style="list-style-type: none"> ・世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見たおおまかな国内の地域差に関心をもち、それらを意欲的に追究し、捉えようとする。 ・世界と比べた日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」の観点をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・世界と比べた日本の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択し、その情報から日本の地域的特色について読み取ったり、図表にまとめたりすることができる。 ・世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」を理解し、その知識を身につけている。 	関心意欲態度
	思考判断表現
	技能
	知識・理解

5. 指導計画(全7時間予定)

学習過程	時	○ねらい ・学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
				関	思	技	知
1 世界と比べた日本の山地	1	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ日本には火山と地震が多いのだろう。 ・世界の造山帯の地図から日本の所属する造山帯を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使い、地震と火山の分布図を重ね合わせ、視覚的に一致していることを理解しやすいようにする。 		○		

		・地震と火山の分布図からわかることを読み取る。				
2 世界と比べた日本の平野	1	○世界と比べて、日本の平野と川の特徴を説明しよう。 ・「世界と日本の河川の比較」の資料をもとに、日本の河川の特徴を読み取る。 ・河川がつくる平野やその他の地形について知る。	・世界と日本の河川を比較するときに、見取るポイントがわからない生徒には、見取るポイントを示す。		○	
3 日本の海岸と海流	1	○日本に見られる海岸の利用方法と日本付近の海流を理解しよう。 ・グループで海岸の利用方法を話し合う。	・日本に見られる様々な海岸を示し、グループで利用方法を話し合うことで、多様な利用方法について理解を深めることができるようにする。			○
4 世界の気候の特色	1	○世界に見られる5つの気候帯の違いは何だろう。 ・雨温図、景観写真を読み取り、5つの気候帯の特色をとらえる。	・教科書の雨温図では、気温と降水量について、高い(多い)月やその差についてみるよう助言することで特色をとらえやすくする。 ・景観写真図では、動植物について見取らせることで、気候の特色をとらえやすくする。 ・一覧表をつくることで、5つの気候区分を比較しやすくする。		○	
5 日本の気候の特色①	1	○温帯に属する日本の中で地域差があることを理解しよう。 ・気温と降水量の表をもとに雨温図をつくる。 ・作成した雨温図をもとにそれぞれに見られる特徴をまとめる。	・日本の6つの雨温図を作成し、一覧表にまとめることで地域差があることを理解できるようにする。 ・世界の気候の雨温図を見取るポイントと同じことを伝えることで、前時の活動を生かし、日本の気候にも地域差があることを理解しやすくする。		○	○
5 日本の気候の特色②	1 本時	○なぜ温帯に属する4つの都市の気候に違いがあるのか考えよう。 ・資料や実験をもとに気候の違いについて考える。	・既習事項の日本の75%が山地であることや季節風の資料を提示することで、気候の違いに気づけるようにする。 ・模型を使った実験をすることで視覚的に違いが起こる原因をとらえられるようにする。		○	
6 日本の様々な自然災害	1	○なぜ日本は様々な自然災害が起こるのだろうか。 ・地形や気候との関わりに着目し、自然災害が起こることを理解する。	・既習事項の地形や気候と関わり合わせて考えることで、多様な自然災害が起こることを理解できるようにする。			○

6. 本時

(1) ねらい

- ・温帯に属する日本の気候の中で、地域によって違いがあるか考えることができる。

(2) 授業改善の視点

- ・模型を使って実際に冬と夏の状況を実験することは、地域のよって違いがあることを考えるのに有効であろう。
- ・調べたことをまとめるときに、「まとめる基本の形」にあてはめてまとめることは、地域ごとの気候の特色を理解するのに有効であろう。

(3) 準備

- ・教師・・・日本列島模型、うちわ(季節風)、細かく切った紙(降水量)、ワークシート、PC、TV

(4) 展開

<p>学習活動 ・予想される生徒の反応(*)</p>	<p>時間</p>	<p>指導 形態</p>	<p>指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価</p>
<p>1. 課題をつかむ。 ○前時までの学習を振り返る。 ・日本の地形の75%は山地である。 ・日本の気候は大きく3つに区分できる。 ・温帯に属する4つの都市の気候が異なっている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>本時のめあて なぜ温帯に属する4つの都市の気候に違いがあるのか考えよう。</p> </div>	<p>5 分</p>	<p>一斉</p>	<p>・4つの都市の同じ月の景観写真を見せ、その違いに気づけるようにする。</p>
<p>2. 予想を立てる。 ○気候が異なる原因となりそうなものを予想しよう。 *地形、季節風、標高差、海流、緯度など</p>	<p>3 分</p>	<p>一斉</p>	
<p>3. 温帯に属する4つの都市の気候に地域差が生じる原因を調べたり考えたりする。 ○模型を使い、地域差がおこる原因をとらえる。(まねる) *予想されるキーワード 山地、海流(暖流、寒流)、季節風 山に囲まれた地形</p>	<p>30 分</p>	<p>一斉</p>	<p>・教室の中央に模型を置き、どの角度からでも見えるよう配慮する。 ・その原因となるキーワードをメモをとらせながら行う。</p>
<p>○実験をもとに、個人、グループで調べる。 *地理的条件や地形とを関連づけてまとめている。(できる)</p> <p>内陸の気候→気温下がる 降水量少ない 太平洋側の気候→気温上がる降水量夏多い 日本海側の気候→降水量冬多い 瀬戸内の気候→降水量少ない</p>	<p>個人 グル ープ</p>		<p>・個人で調べる時間を十分確保することで自分の意見をもつことができるようにする。 ・調べてわかったことだけでなく、それを元に考えたことや推測したことも含めてまとめるよう伝える。 ◎予想で出てきたことを参考にさせ、気候に影響を与えそうなものを考えさせ、そこから原因を考えるように助言する。</p>
<p>4. 温帯に属する4つの都市の気候に地域差が生じる原因をまとめる。 (まねる)(わかる)</p>	<p>10 分</p>		<p>・「まとめる基本の形」を提示し、調べたことをあてはめることで、誰でも学習したことが確認できるようにする。 ◇実験や雨温図、調べたことをもとに、地域差が生じることをまとめている。【思考判断表現】</p>
<p>5. 振り返りを行う ○次時に出す問題を作成する。</p>	<p>2 分</p>		<p>・本時で学習した内容から、次時にクラスメイトに出す問題を作成する。 ◎本時のめあてにそった問題を作成するよう助言する。</p>

7. 板書計画

めあて：なぜ温帯に属する4つの都市の気候に違いがあるのか考えよう。



○前時まででわかっていること

- ・日本の地形の75%は山地である。
- ・日本の気候は大きく3つに区分できる。
- ・温帯に属する4つの都市の気候が異なっている。

予想してみよう！

地形、季節風、標高差、海流、緯度・・・

調べた結果

- ・
- ・
- ・
- ・

日本列島の地図

海流と季節風、地形が要因となる
ことがわかる内容にしていく。

